

市立 母子健康センターを建設

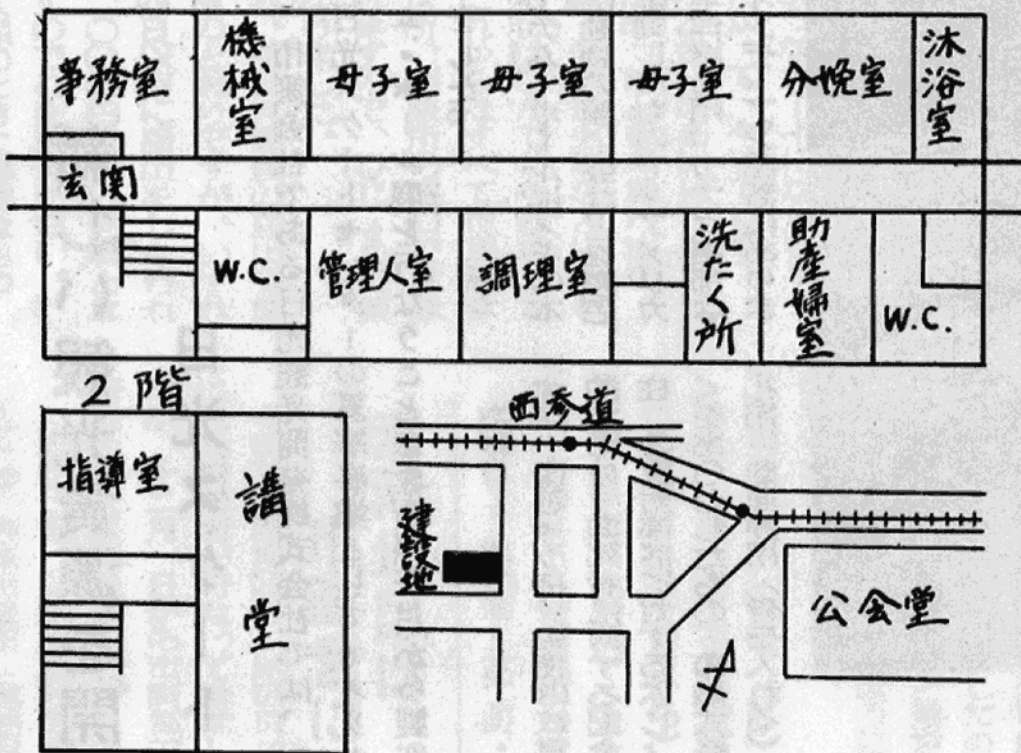
母と乳幼児の健康を守る

このほど下本町の旧授産所跡に、市立母子健康センターをつくることになり、近く着工のはこびとなりました。

このセンターは、比較的安い料金で皆さん方が安心してお産ができる助産部門と、妊産婦、乳幼児などの保健指導部門を備えた母子保健中心の施設です。皆さん方から建設してほしいという要望が多かった施設だけに完成後の成果が期待されています。

この母子健康センターは、延二七〇平方メートル(八一・五坪)の二部二階の木造平家建てで、一階が助産部門、二階が保健指導部門となっています。助産部門には母子室が三室(六ベット)

母子健康センターの平面図



分産室、沐浴室が一室ずつ、そ

の他給食室、助産婦室、管理室など完備した施設が備えられます。二階の保健指導部門では講堂がつくられ、ここでは乳幼児、妊産婦、新婚家庭などを対象に母子健康についての健康教育的の場として、正しい知識の普及を図ることになっています。

工事費は五二四万円、来春三月に完成の予定で、四月から開所する予定です。

なお、このセンターの指導介

助は医師、助産婦、保健婦さんにお願ひし援助協力をしていただくことになっていますが、皆さん方が安心してお産ができるよう施設とスタッフに重点が置かれています。

また、入所手続き、費用、入所するとき必要な母親と赤ちゃんの用品など、こまかい点については現在検討していますのでおってお知らせいたします。

家庭教育学級ひろく

テーマ「親と子の話し合い」

十一月二十七日、小来川小学校で第二回目の家庭教育学級が開かれました。参加者は小来川地区の母親約四〇人で、篠崎教育長、大橋教育委員、松井社会教育委員長、小来川小学校長など六人が助言者となり、子に対する家庭教育について話し合いが行なわれました。

意見を出し合い盛況のうちに第二回目の家庭教育学級を終了しました。

しぜん家庭教育が必要日常生活の中で、子どもと話し合いの場をせんにつくり、しぜんな形で教育することが大切です。子どもを叱ったときは、あとで必ず話し合う。もちろん、よいことをしたときはほめてあげ、親と子どものあいだに溝をつくらない。叱り続けられない。など、親の取るべき態度が日常生活の中でせんに出るように心がけることがたいせつではないでしょうか。

二つのグループに分かれ、映画を見てどんな気持ちになったかそれぞれの日常生活をふりかえって話し合いが展開されました。映画は「父親が本気になって叱るとき」というもので、映画のストーリーの中で、とくに問題になると思われるところをひらひらあげ、話し合いの題材にしましたが二つのグループとも活発な



助言者を囲んで熱心に話し合う小来川の皆さん

